フランスにおける文化的背景と映像解釈における考察

A study about between the cultural back ground and the interpretation.

星野 浩司[†]　中川 千恵子[‡]　Michaut Thomas　Marion Frugier
Koshi Hoshino　Chieko Nakagawa[‡]

†九州産業大学　‡Sorbonne - Universités ParisIV

Abstract This research uses image materials independently created in France and Japan to carry out a viewing experiment where we evaluated and analyzed the trends and differences in subjects from each country's sensory reaction to the images. In particular, citing text from literary works, cutting the metaphorical expressions from each scene into parts for comprehension and using this as a hint for the interpretation of image metaphors. Our analysis showed that the vast majority of subjects were able to correctly interpret metaphorical expressions in the image metaphors and that each individual expressed clear thoughts and ideas.

1. 研究手法

本研究では、フランスと日本の両国で独自に作成した映像素材を用いて視聴実験を行い、それぞれ両国の被験者においてどのような感性傾向があるのか、その差異を評価分析するものである。特に、文芸作品からのテキスト情報を引用し、そのシーンにおける比喩的表現を別々のカットごとに内包させ、映像メタファー解釈の手掛かりとする。

＜実験映像の素材＞

フランスと日本の両国における感性傾向の差異によってフランスが独自に育んできた映像教育における考察の特性を計るため、実験映像のベースは両国に馴染みの深い文芸作品を主題とするのが最適と考える。

・基盤とする作家
：アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ
（Antoine Marie Jean-Baptiste Roger, comte de Saint-Exupéry）

・引用する著作
：Terre des Hommes（人間の土地 1939）
：Pilot de Guerre（戦う操縦士 1942）
：Le Petit Prince（星の王子さま 1943 年）

著作中の印象的フレーズを用いて比喩的映像表現に置き換える。

１）バラバラになった各シーン素材映像
：3～4シーン

２）ストーリーラインに沿ってつなげた完成映像

それぞれバラバラになった各シーンの素材映像に対する主観的な考察を調査する。また、それらが文脈に関係なくつながった際の印象について意見の変化を分析する。

最終的な作者の意図をストーリーラインにそった完成映像で視聴者がどのように考察するのかを分析し、段階を追うことで、視聴者の映像リテラシーの変化を分析し、作者の意図を考察する能力について解析する。

＜実験手法＞

・フランス、日本、両国間の被験者に視聴を促し、その後、映像における幾つかの質問を行う
・質問は筆記形式にて５段階選択式のものや自由記載形式のアンケート調査を実施する

＜被験者＞

・20代～30代のフランス人、日本人の男女

＜実験詳細＞

１）3～4シーン（各1分弱：合計5分弱）の映像視聴＋アンケート記入（15分）
２）ストーリーに沿った映像視聴＋アンケート記入（25分）

＜実験時間＞

視聴時間10分＋アンケート記入時間25分程度
（合　計）約35分

＜評価方法＞

・それぞれ両国の被験者から取得した調査データを比較分析する
・選択式評価では印象分析の比較分析を行う
・自由記載では、記載内容に含まれるキーワードを抽出し、抽出したキーワードを基礎とした統計分析を行う

＜考察＞

・調査分析結果から、両国を比較した際の、それぞれの特徴分析を行う
・両国の差異が生じた背景について、文化的、教育的、歴史的観点から考察を行う
・考察を根拠に今後の日本における映像教育において不足している点や評価すべき点を検討する。

2. 実験映像の詳細

本研究では、検証実験に用いる映像を新たに制作している。映像の主要な場面でアントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリの著した小説内におけるテキストを引用し、各シーンで主人公の心情や社会的背景を語り、映像メタファーによる隠喩表現における思考の切っ掛けを模索している。

１）引用テキストの事例

－「石」が多くの石材を要約するように、「人間」は多くの人間の要約であると信じてしまっていた。大聖堂と石材の総和を混同してしまい、その結果、少しずつ、遺産は消え失せてしまっていた。「人間」を再興しなければならない。「人間」こそ私たちの文化の本質だ。私たちの共同体の要石だ。私の勝利の原理だ。

J’ai cru que l’Homme résumait les hommes, comme la Pierre résume les pierres. J’ai confondu cathédrale et somme de pierres et, peu à peu, l’héritage s’est évanoui. Il faut restaurer l’Homme. C’est lui l’essence de ma culture. C’est lui la clef de ma Communauté. C’est lui le principe de ma victoire.

<Antoine de Saint-Exupéry “Pilot de Guerre”1942>

2)映像メタファーの事例　（図 1、図 2）

さらに、今回の映像において、フランスが歴史的に恒久の念を込めてきた水や石を対象に主人公の人生における永遠や社会に根強く形成されている階級社会の問題性として表現している。

図 1 連動する時間と水の流れが遮断されているシーン

図 2 永遠を象徴する石と何者でもない自らの存在を連想するシーン

3. まとめ

本実験において、フランス人の 20 代～30 代の男女に対し視聴実験後、アンケート調査を行っており、これから日本人被験者に対する実験を行う予定である。現在､アンケートの集計を行っている段階ではあるが、被験者の多くは映像の比喩的表現として用いた映像メタファーを正しく解釈し、個人の明確な考えや意見を述べていることが分析される。現段階におけるフランス人被験者の傾向分析からも、戦前のシネフィルたちが哲学的な素養を総動員して擁護してきた映画に対するフランスの文化伝統を再認識させられる。また、今後はフランスが古くから取り組んできた映画記号論の成果と共に本研究を遂行する予定である。

「参考文献」

1. Mr. Frederique Leseur. Adjointe au chef du service des activities educatives et culturelles, Direction des publics
2. Ms.Nadine Combert. Centre Pompidou, educatives et culturelles, Direction des publics
3. 西野嘉章:博物館学―フランスの文化と戦略、pp61-78、 東京大学出版(1995)
4. Agnes Marconnet. Chef de l'unite mediatheque Service accueil, information,et documentation,Direction des publics
5. 二宮皓:世界の学校、pp44-47、学事出版株式会社(2006)
6. Centre de Recherche pour l ’Etude et l ’Observat ion des Condi t ions de Vie"La diffusion des technologies de
7. l'information dans la société française"(2007)pp. 47-63
8. La documentation française "Statistiques de la culture chiffres cles 2007″pp. 53-60 22
9. Musee Du Louvre "Rapport D'Activite 2006"pp. 143-144
10. 出口丈人：映画映像史、pp12-24、小学館（2009）
11. ベラ・バラージュ：映画の理論、pp164-193、学芸書林（2003）
12. アンドレ・バザン：映画とは何か、pp216-307、岩波文書（2015）